＜先週の説教から＞

『ルカ87 ― 弟子としての覚悟とは?』

武田 真治　牧 師

出エジプト記　20：12　ルカ福音書　9：57～62

イエス様はガリラヤ地方での伝道から、当時の首都エルサレムへの旅を始められました。最初はサマリア地方での伝道をと思われましたが、サマリアの人々はイエス様を歓迎しなかったため、ヨルダン川の東側を下ってエルサレムへ向かう道を向かわれることになりました。そのためのあらかじめの準備として、それが次の10章1節の「主はほかに72人を任命し、御自分が行くつもりのすべての町や村に二人ずつ遣わされた」のでした。12弟子の他に、たくさんの弟子たちの中から、新しく伝道者たちを集められる必要が出来たのです。今日の箇所は、まさにその新しい伝道者が選ばれるにあたり、その“覚悟”をイエス様が教えられた箇所だと言い得ます。即ち「『あなたがおいでになる所なら、どこへでも従って参ります』と言う人がいた。イエスは言われた。『狐には穴があり、空の鳥には巣がある。だが、人の子には枕する所もない。』そして別の人に、『わたしに従いなさい』と言われたが、その人は、『主よ、まず、父を葬りに行かせてください』と言った。イエスは言われた。『死んでいる者たちに、自分たちの死者を葬らせなさい。あなたは行って、神の国を言い広めなさい。』また、別の人も言った。『主よ、あなたに従います。しかし、まず家族にいとまごいに行かせてください。』イエスはその人に、『鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない』と言われた。」です。

最初の人は、自分の方から志願して来た人でしょう。その熱意はきっとイエス様も評価されたことでしょうが、ただ、伝道者として派遣されるということはイエス様の代理として奉仕するため、その人もイエス様と同じような生き方を背負うことになるよと教えられたのでした。まさに伝道者としての“覚悟”を示され、その上で従って来るようにということでしょう。そして、二人目と三人目の方は、ペトロやヤコブと同じようにイエス様の方から“魚を捕る漁師=伝道者”として期待して選ばれた人たちでした。ですが、二人とも各々の条件を挙げ、すぐには従えなかった点をイエス様はかなり厳しく問題だと教えられたのでした。逆に言えば、それだけ“残してしまう家族”に人はどうしても後ろ髪をひかれてしまうということでしょう。特に、最後のイエス様の言葉『鋤に手をかけてから後ろを顧みる者は、神の国にふさわしくない』は、伝道者だけでなく私たち信仰者にとっても重要な教えです。牛に牽かせて畑を耕す先の尖った鋤を使ってしるのに、後ろを向いてしまうことは正しく耕せないばかりか、何より“危ない”行為です。これは、後に残してきた家族だけでなく、自分の過去の振る舞いや言葉、昔の出来事にこだわって“後ろばかり見ている”生き方では、正しく進めないだけでなく、危うさや誘惑を自らに呼び込んでしまうと！すでに神様の導きは開始しており、前を向いて進むべき時なのに、いつまでも過去に囚われていないようにとの教えです。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【今週の集会】

＊聖書研究・祈祷会　Ⅰ．9月30日（水）20：00
　　Ⅱ．10月1日（木）10：30

聖書研究：　ヨブ記
祈祷主題：　上尾富士見幼稚園を覚えて
担 当 者：　（水）KH　（木）YE
祈りに覚える人：NYさん　NEさん
ひつじ雲の会：9月28日(月)　10：00～

【教勢報告】

主日礼拝　男19　女47　計66
祈祷会 Ⅰ．男1　女2　計3　Ⅱ．男1　女7　計8
日曜学校　幼稚科2　小中科6　計8

【次週主日礼拝】　１０月　４日（日）

聖　書：　詩　編　９０：９～１７
　　ルカによる福音書　１０：１～５
説　教：「ルカ88 ― 収穫は多いが、働き手が少ない」　武田 真治 牧 師
讃美歌：５２４（1）、３２、４６９、５２１、５６４、８１（1～2）、４６（1）

【次週当番表】

司式:HN長老 奏楽:NY 礼拝:IY長老
配餐：KY　SM　AS　IY　各長老
献金：NE　NS　受付：NE　MH
会堂準備：AA　AT　SM　YE
看板：HS　週報：II　お花：MH

【次週集会予定】

礼拝前：・日曜学校　・聖書輪読会　・はこぶねルーム
礼拝後：・お茶の会　・牧師と語る会
　　・会堂管理委員会　・長老会

６７－３９

週　報

2026年度　教会標語

「神様に“望み”を持って、生きる！」

２０２６年　９月　２７日

日本キリスト教団　**上尾合同教会**
牧　師　**武田　真治**

〒362-0041　上尾市富士見２－３－33
TEL＆FAX　048－771－6549